



感染症発生動向調査速報

2026年 第2週

令和8年1月5日～令和8年1月11日

【管内情報】

定点種別	疾病	注意報 開始値	警報値		報告週					
			開始	終息	49w	50w	51w	52w	1w	2w
インフルエンザ COVID19	インフルエンザ	10	30	10	8.33	9	11.7	12	4	2.67
	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	0	0	0.33	0	0	1.33
小児科	RSウイルス感染症	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	咽頭結膜熱	-	3	1	0	0	0	0	0	0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	0	0	0	0	0	0.50
	感染性胃腸炎	-	20	12	0	0	0	0.5	0	0.00
	水痘	1	2	1	0	0	0	0	0	0.50
	手足口病	-	5	2	0	0	0	0	0	0.00
	伝染性紅斑	-	2	1	1.5	0.5	1	2.5	0	0.00
	突発性発しん	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	ヘルパンギーナ	-	6	2	0	0	0	0	0	0.00
	流行性耳下腺炎	3	6	2	0	0	0	0	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	-	1	0.1	0	0	0	0	0	0.00
	流行性角結膜炎	-	8	4	0	1	0	0	0	0.00
基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	無菌性髄膜炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	0	0	0	0	0	0.00
急性呼吸器感染症	急性呼吸器感染症(ARI)*	-	-	-	8	9	12	14.7	4	5.33

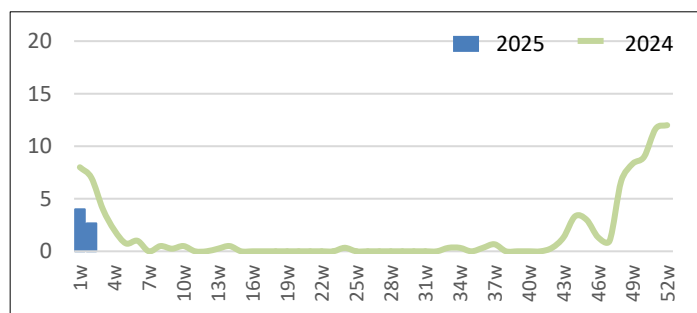


図1 インフルエンザ発生状況(定点当たり)

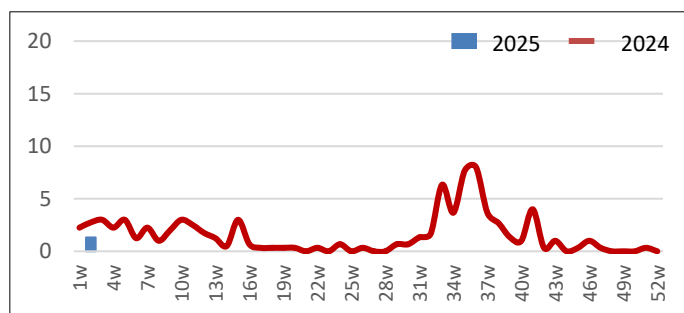


図2 新型コロナウイルス感染症発生状況(定点当たり)

【通信欄】

〈インフルエンザ〉

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。